

モビリティDXプラットフォーム イベント開催報告 及び 今後のイベントについて

自動運転UX創造チャレンジ – イントロダクション 自動運転の現在地と社会実装の未来 – ともに考える未来の移動体験

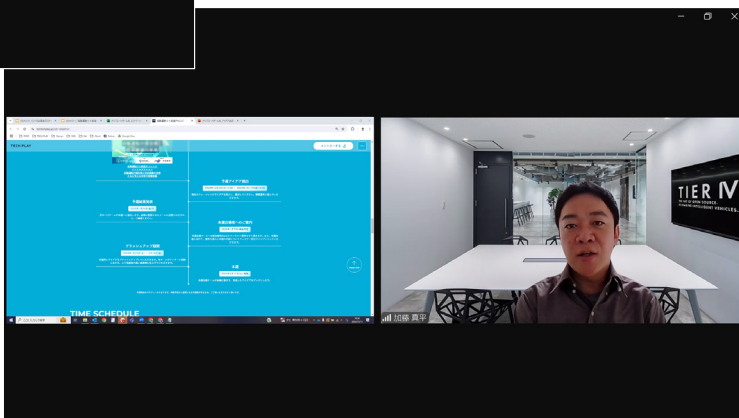
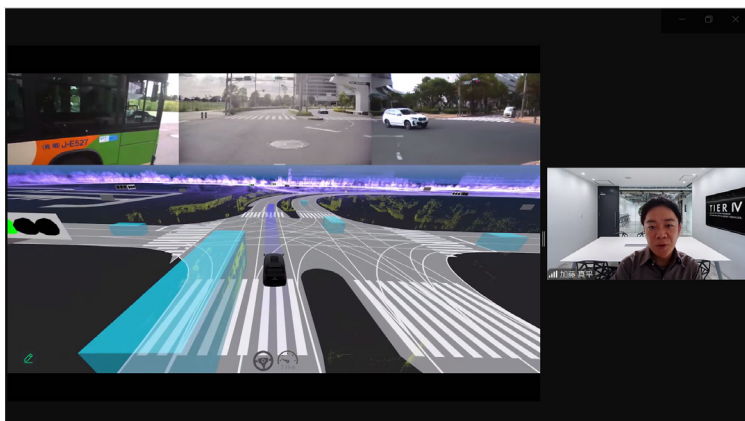
モビリティDXプラットフォームのソフトウェア人材獲得・育成に向けた新たな取組として、自動運転のユーザーエクスペリエンス (UX) をテーマに、人々が運転から解放される未来にどのようなサービス・HMIが実現しうるかを考える『自動運転UX創造チャレンジ』と題したアイデアソンを開催します。

アイデアソンに先立ち、12月11日(水)に自動運転UX創造チャレンジのイントロダクションイベントを開催いたしました。

イベントでは、自動運転技術の進化と今後の社会

実装に向けた課題について株式会社ティアフォー 創業者 兼 代表取締役社長CEO 加藤 真平氏が講演した後、アイデアソンの概要説明が行われました。

加藤氏の講演では、自動運転技術について現在の技術で実現できることや解決できる課題、新たなサービスがもたらす価値について紹介され、アイデアソン参加予定者だけでなく、モビリティに興味を持つ多くの皆様に理解を深めていただけるものとなりました。



12月11日(水)
自動運転UX創造チャレンジ
イントロダクションイベントの様子

●アイデアソンのエントリーを募集中です！

自動運転の車内で提供できるサービスのアイデアと、それを実現するHMI（人と車の間にあるインターフェース）を提案してください。

アイデア募集締め切り：2025年1月17日（金）12:00

※書類選考通過後は、アイデアをブラッシュアップするメンタリング期間を得て、2月15日の本選に進んでいただきます。

●募集要項・お申し込みはこちら

<https://bd.techplay.jp/sdv-ideathon>



プラットフォーム会員交流イベント

2024年12月17日（火）16:00～20:00

自由な情報共有・ディスカッションや交流

プラットフォーム会員交流イベント

— 第1回 —



開催日時：12/17（火）16:00～20:00

開催方法：現地参加 もしくは オンライン配信

開催場所：Deloitte Tohmatsum Innovation Park Room D

アクセス：〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル8F

JR有楽町駅 国際フォーラム口より徒歩3分

地下鉄有楽町線 D5出口より徒歩3分

地下鉄千代田線 二重橋前駅 出口1より徒歩2分

JR京葉線 東京駅B1F 地下コンコース出口6より連絡

JR東京駅 丸の内南口より徒歩5分

●会場イメージ



●概要

モビリティDXプラットフォーム会員同士の自由な情報共有・ディスカッションや交流のためのイベント

●目的

様々なテーマについて、会員の取組事例のプレゼンテーション、ディスカッション、ネットワーキングなどを行い、プラットフォーム会員同士の交流を促進するとともに、モビリティDXに関する知見を深めることを目指します。

●第1回概要

SDV時代の車室空間の充実化に向けて、エンタメとセットでの車室空間の在り方や、それらを支えるAI技術の観点について登壇者からの取組事例紹介やトークセッションを行った後、懇親会（立食形式）を実施。

● タイムスケジュール

Time	Agenda	Title・Contents	Speakers
16:00 (10min)	開会		経済産業省
16:10 (10min)	プレゼン①	ソフトウェアデファインドビークルがもたらすモビリティの新価値創造	本田技研工業株式会社 波多野 邦道
16:20 (10min)	プレゼン②	動くエンターテインメント空間	Dolby Japan 大沢 幸弘
16:30 (10min)	プレゼン③	生成AIで描く未来の車室空間～グローバル事例と可能性～	Microsoft 吉見 英朗
16:40 (10min)	プレゼン④	Z世代が考える「これからのカーライフをどう紐解くか？」	株式会社AMANE 松田 斗夢
16:50 (10min)	プレゼン⑤	SDV時代におけるセキュリティ人材不足課題とコミュニティづくりの重要性	VicOne株式会社 小田 章展
17:00 (10min)		休憩	
17:10 (20min)	トークセッション テーマ①	SDV発展と車室空間でのユーザー体験の重要性	モデレーター 瀧口 友里奈 登壇者5名+経済産業省自動車課モビリティDX室長 伊藤建
17:30 (10min)		質疑応答①	
17:40 (20min)	トークセッション テーマ②	車室空間のプライベート化におけるAIの役割	モデレーター 瀧口 友里奈 登壇者5名+経済産業省自動車課モビリティDX室長 伊藤建
18:00 (10min)		質疑応答②	
18:10 (20min)	閉会		経済産業省
18:30 (90min)		懇親会	

● 登壇者

・プレゼン1

ソフトウェアデファインドビークルがもたらすモビリティの新価値創造



波多野 邦道

本田技研工業株式会社 SDV 事業開発統括部
エグゼクティブチーフエンジニア

本田技研にて自動運転の社会実装に向けた活動をリード。自工会自動運転部会会長として 国際基準調和、国際標準化に取り組む。自動運転普及に向けた官民連携の取り組みへも参画。自動運転AIチャレンジ実行委員会委員長

・プレゼン2

動くエンターテインメント空間



大沢 幸弘

Dolby Japan 日本法人社長 (兼) 東南アジア・大洋州統轄

三井物産にて情報産業ビジネスに従事した後、2005年 米国Macromedia 日本法人社長に就任。その後、複数回の(被)買収を通じ、2014年ドルビー・ジャパン(株) 代表取締役社長に就任。早稲田大学(理工学部)卒 東京大学EMP 修了

・プレゼン3

生成AIで描く未来の車室空間～グローバル事例と可能性～



吉見 英朗

Microsoft Principal Architect

最先端の生成AIを駆使し、自動運転やSDVなど次世代モビリティ領域におけるクラウド開発をリード。グローバルな視点で、自動車業界への革新的な価値創出を支援するコンサルティングを提供するエキスパート

・プレゼン4

Z世代が考える「これからのカーライフをどう紐解くか？」



松田 斗夢

株式会社AMANE

学生団体モビラボ Z世代モビリティ研究所 担当ディレクター
2021年4月 学生団体モビラボに所属、フリーランスデザイナーとして活動を開始、2022年3月 九州大学 共創学部を卒業、2023年12月 株式会社AMANEに所属

・プレゼン5

SDV時代におけるセキュリティ人材不足課題とコミュニティづくりの重要性 (仮題)



小田 章展

VicOne株式会社

日本地域代表 セールス & ビジネス開発リード

日系電機メーカー カーナビ設計開発
エレクトロニクス商社 IoT FAE・事業開発
コンサルティングファーム IoT コンサル
セキュリティベンダーセキュリティBiz開発 新会社 VicOne 立ち上げ

・トークセッション

① SDV 発展と車室空間でのユーザー体験の重要性

② 車室空間のプライベート化におけるAIの役割



波多野 邦道



大沢 幸弘



吉見 英朗



松田 斗夢



小田 章展



経済産業省 製造産業局
自動車課 モビリティDX室長
伊藤 建



<モデレーター>
経済キャスター
株式会社グローブエイト
代表取締役
瀧口友里奈

● 参加対象者

- ・モビリティ業界への興味を持っている方
 - ・モビリティDXプラットフォームの会員同士で繋がりたい方
- ※自動車メーカー・サプライヤー、スタートアップ、大学・研究機関、異業種、学生・個人など幅広い方々の参加をお待ちしております

● 参加メリット

- ・テーマに関する会員の取組事例についてのプレゼンテーションを通じて、モビリティDXに関する知見を深めることが可能
- ・ディスカッション、ネットワーキングを通じて、プラットフォーム会員同士の交流の促進が可能

● 参加費用

無料 ※交通費は自己負担

● 参加方法

モビリティDXプラットフォーム会員交流イベント第1回のお申し込みはこちらよりお申し込みください。

[https://www.jsae.or.jp/enquete/exchange_event 01 /](https://www.jsae.or.jp/enquete/exchange_event 01/)



モビリティDX戦略策定後の進捗

令和6年度補正予算案を閣議決定

2024年11月29日、令和6年度補正予算案が閣議決定されました。

モビリティDX関係では、地域の移動課題が顕在化する中、新たな自動運転移動サービスの社会実装を通じて、地域における移動課題の解決とモビリティ産業の創出を目的に、①全国への展開に対応可能な日本発「自動運転標準モデル」の構築や、②SDV・自動運転の開発高速化に必要な「オープンデータセット」の構築を行う、「地域の移動課題解決に向けた自動運転サービス開発・実証支援事業」を盛り込んでいます。

地域の移動課題解決に向けた自動運転サービス開発・実証支援事業

令和6年度補正予算案額 70億円

製造産業局自動車課

事業の内容	事業スキーム (対象者、対象行為、補助率等)
事業目的 地域の移動課題が顕在化する中、新たな自動運転移動サービスの社会実装を通じて、地域における移動課題の解決とモビリティ産業の創出を目的とする。	(1) 国 → 委託 → 民間企業等 (2) 国 → 委託 → 民間企業等
事業概要 (1) 全国への展開に対応可能な日本発「自動運転標準モデル」の構築 自動運転タクシーの社会実装を加速するため、自動運転に必要なハードウェアやソフトウェア、安全性評価手法等の開発ツールを整備し、都市・地方・過疎地域など多様な環境に対応できる「自動運転標準モデル」を構築する。 (2) SDV・自動運転の開発高速化に必要な「オープンデータセット」の構築 SDV・自動運転の開発に必要なデータ量の不足を克服するため、リアルデータから仮想データを生成するための生成AI基盤モデルを開発するとともに、生成した仮想データとリアルデータを組み合わせた大規模オープンデータセットを民間事業者が活用可能な形で構築する。	成果目標 2027年度以降、地方部において自動運転タクシーを社会実装する。加えて、本事業の成果を民間事業者が活用することで、「モビリティDX戦略」に掲げる「2030年のSDVグローバル市場における日系シェア3割」の実現に向けたSDV・自動運転の開発を加速する。

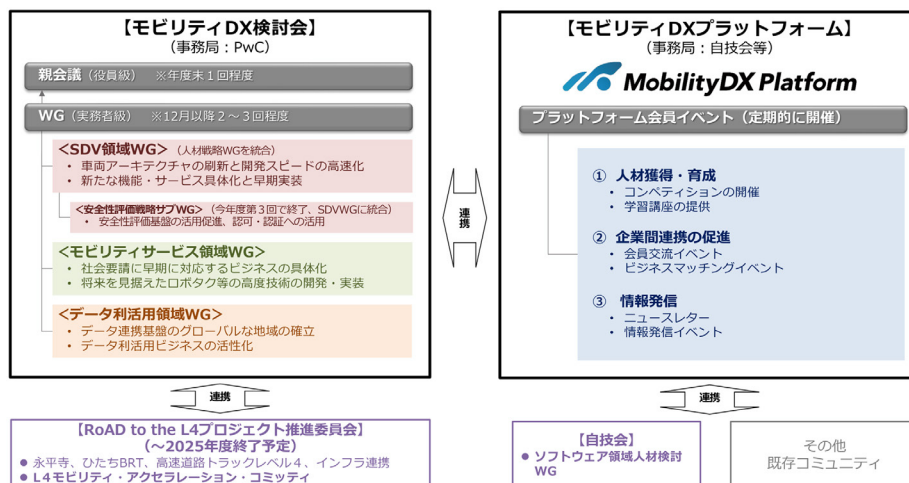
令和6年度モビリティDX検討会を開始

2024年12月より、令和6年度モビリティDX検討会のワーキンググループ (SDV領域WG、モビリティサービス領域WG、データ利活用領域WG) を開始しました。本プラットフォーム活動とも連携しながら、今後、数回WGを開催し、今年度末にモビリティDX検討会 (親会議) を開催予定です。追って経済産業省HP (以下) に事務局資料や議事要旨を公表いたします。

モビリティDX戦略・モビリティDX検討会 (経済産業省HP)

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/automobile/jido_soko/index.html

今年度のモビリティDX政策の推進体制



モビリティDXに関わる国内外動向について

- 世界初、カメラとの光軸一致を実現した「カメラ - LiDARフュージョンセンサ」を京セラが独自開発
➔ <https://www.kyocera.co.jp/newsroom/news/2024/002595.html>
- 欧州16カ国・約27万kmの高精度3次元地図データ (HD マップ) を新たに整備
➔ <https://www.dynamic-maps.co.jp/news/2024/1112.html>
- NXP の新しい i.MX 94 アプリケーション プロセッサ ファミリは、産業および自動車エッジに安全でセキュアな接続を提供します。
➔ <https://www.nxp.com/company/about-nxp/newsroom/NW-NXP-NEW-IMX94-APPLICATIONS-PROCESSORS>
- IVI システムで発見された複数のゼロデイ脆弱性に対するセキュリティ緩和策
➔ <https://vicone.com/jp/blog/security-mitigations-for-the-multiple-zero-day-vulnerabilities-discovered-in-an-ivi-system>
- WirelessCar が AWS Marketplace で SaaS 製品のフルスイートをリリース
➔ <https://www.wirelesscar.com/press-room/release/?id=510ED8BF55A886BB>
- アップストリームセキュリティが AWS 自動車コンピテンシーを取得
➔ <https://upstream.auto/press-releases/upstream-security-achieves-aws-automotive-competency/>
- セレンス、車載向けの先進的な組込み型SLMモデル「CaLLM™ Edge」を発表
➔ <https://www.cerence.com/ja/node/16811/pdf>
- 株式会社SUBARU、オンセミのHyperluxイメージセンサをAI対応の次世代「アイサイト」運転支援システムに採用
➔ <https://www.onsemi.jp/company/news-media/press-announcements/ja/onsemi-hyperlux-sensors-selected-for-subaru-s-next-generation-ai-integrated-eyesight-system>
- ティアフォー、Minibus 2.0を販売開始 自動運転バスの社会実装を加速
➔ https://tier4.jp/media/detail/?sys_id=20DvAL03ioN7MqhTAtEVVS&category=NEWS

- WeRide ロボット掃除機がマリーナベイに登場、シンガポール初の商用自律衛生プロジェクトとなる

➔ <https://www.weride.ai/posts/202>

- ロームのSoC向けPMICが、総合半導体ファブレスメーカーTelechipsの次世代コックピット向け電源リファレンスデザインに採用 2025年より欧州の自動車メーカー向けに出荷開始予定

➔ https://www.rohm.co.jp/news-detail?news-title=2024-11_news_telechips&defaultGroupId=false

- 日本通運・全国通運・日本フレートライナー・JR貨物・T2の5社が、自動運転トラックと貨物鉄道を組み合わせたモーダルコンビネーション実証実験の検討を開始 ～全国への自動運転輸送ネットワークの拡大に向けて～

➔ <https://t2.auto/news/1121.pdf>

- トヨタ九州宮田工場での「e-Palette」を活用した工場敷地内の移動サービスの実証運行に協力

➔ https://www.monet-technologies.com/news/info/20241121_01

- マクニカ、岐阜県恵那市と次世代モビリティを活用したまちづくり連携協定を締結 恵那市において初めての自動運転実証実験を実施

➔ <https://www.macnica.co.jp/public-relations/news/2024/146497/>

- 青森県平川市のデマンド交通「のらっさ」の運行に協力

➔ https://www.monet-technologies.com/news/info/20241122_01

- 東京都狛江市内でローカル5G等を活用した遠隔型自動運転実証実験を実施中

➔ <https://www.unerry.co.jp/news/local5g-autonomous-driving/>

- 生成AIが導く未来に、自動車のサイバーセキュリティはついていけるのか

➔ <https://vicone.com/jp/blog/genai-takes-the-wheel-can-automotive-cybersecurity-keep-up>

- Uber Japan、長野県白馬村と協定を締結、タクシー配車サービスを期間限定で開始 ～インバウンド観光客急増の白馬村で、冬の“移動の足”需要に対応～

➔ <https://www.uber.com/ja-JP/newsroom/hakuba/>

- Sony Pictures Entertainmentの車内エンタテインメントサービス「RIDEVU」をAFEELAに導入を決定

➔ <https://www.shm-afeela.com/ja/news/2024-12-02/>

モビリティDX会員限定!ニュースレターへの記事掲載をご希望される方へ

本ニュースレターを活用してモビリティDXに関わる情報発信をしたい方は<問い合わせ先>まで氏名、ご所属をご連絡ください!

●掲載に関する詳細は以下の通りです。

- ・ご連絡いただいたタイミングで間に合う号への掲載となります
- ・掲載量は1件につき1/2ページ以内となります
- ・URL等外部サイトへのリンクの記載は可能です
- ・記事に関する問い合わせ先をご記載ください
- ・掲載情報は技術紹介や取り組み事例の紹介に限ります。個社の製品やサービスの宣伝はご遠慮ください。事務局が趣旨に合わない内容と判断した場合はお断りする場合がございます。